



# 神戸学園都市 ワイズメンズクラブ



THE Y'S MENS CLUB OF KOBE GAKUENTOSHI  
THE SERVICE CLUB TO THE YMCA

2019年11月（通巻305号）

## < 主 題 >

- ・神戸学園都市クラブ会長：杉本隆人：「広げようワイズの和、令（秩序）をもって」
- ・国際会長：Jennifer Jones(オーストラリア)：「Building today for a better tomorrow」
- ・アジア太平洋地域会長：田中博之（日本）：「アクション！」
- ・西日本区理事：戸所岩雄（彦根シャトー）：「風となれ、ひかりとなれ」
- ・六甲部長：柏原佳子（芦屋）：「スピナーカーの帆に風を集めて」
- ・2019年11月強調活動：Public Relations Wellness：加藤信一 広報・情報委員長（京都トップス）  
「ワイズデーを利用して、地域の人やマスメディアを巻き込んで社会的認知度を高めましょう！」

## 11月第1例会

- ・日時：2019年11月4日（月）10:00～
- ・場所：しあわせの村（神戸市北区）
- ・内容：チャリティラン  
会場での餅つきとファン活動

## < 今月の聖句 >

「主の御手はこの山の上にある。」

（イザヤ書 25 章 10 節）

## 11月誕生者おめでとう

- ・内田邦彦メン(11/20)

## 11月の出席状況

・在籍者	14名
・出席者	12名
・出席率	79%
・メネ/コメ	2名
・ゲスト/ビジタ	10名
出席者合計	24名

## 11月累計ファン成績

・ニコニコ	0円
・CS(年賀切手)	0円
・TOF(断食)	0円
・FF(家庭の断食)	0円
・BF(古切手)	0円
・東日本募金	0円
・Yサ・ASF	0円

[役員] 会長：杉本隆人、直前会長：田辺征一、書記：田辺征一、会計：中村 剛、連絡主事：達 直樹  
 [委員] 地域奉仕・環境：舘忠之、森本哲男、Yサ・ユース：内田邦彦、交流：合田純二、ファン：野呂隆  
 丹家元陽、EMC：野呂隆、広報・ブリテン：田辺征一、メネット：藤井久子、杉本裕子、メール委員：田辺征一、  
 [六甲部役員] メネット事業主査：藤井久子 [IBC]台湾高雄ポートクラブ（2004年1月締結）  
 [DBC]東京武蔵野多摩クラブ（2011年6月締結） [DBC]岡山クラブ（2018年6月締結）

神戸学園都市クラブ 〒651-2102 神戸市西区学園東町2-1-3 TEL 078-793-7402 FAX 078-793-7470  
 事務例会：第1木曜日、第1例会：第3木曜日、クラブホームページ

<http://www.kobeymca.org/ys/gakuen/bulletin.html>

## <臨時事務例会>

- ・日時：2019年10月31日(木)19:00~20:30
- ・場所：西神戸YMCA
- ・出席者：杉本、舘、田辺、丹家、中村、仁科、野呂、藤井、森本  
連絡主事代行 小寺

### 1. 協議事項

#### (1) チャリティーラン事前打ち合わせ

保健所の指導によりあんこ餅、きな粉餅の販売が禁止となる。しろ餅は販売可能である。これを受け、種々議論の結果、一杯200円の餅入りぜんざい250杯および一袋200円のしろ餅を販売することを決定。もち米は当初の予定通り30kgをつく。

- ・11月3日(日)10:00 集合、餅つきの準備と買出し

- ・11月4日(月)杉本車7:30、田辺車・丹家車8:00に西YMCAを出発

#### (2) 12月14日(土)クリスマス例会の件

クリスマス例会で隠樹さんの入会式を行う。当日の買出し・役割分担等は12月5日(木)の事務例会で協議する。

#### (3) 後期プログラムについて

- ・1月例会：新年会およびSDGS学習とゲーム
- ・または3月例会：「灯籠流し Paper Lantern」を上映

#### (4) 舘ワイは12月末で退会。

### 2. YMCA 報告

小寺連絡主事代行よりワイワイまつり協力のお礼と報告がなされた。

## <10月例会報告>

恒例の学園都市YMCAのワイワイまつりが10月19日に開催され、例年通り餅つきコーナーを担当しました。つき手・かえし手・まるめ手も多くの方の協力を得ることができて感謝でした。メンバーの体力も考えて、今年は例年より少ない30kgをつきました。おかげさまで今年も完売でした。途中一時にわか雨がりましたが、心配された天気も何とか持ちこたえてくれました。益金87,700円をYMCAに献金することができました。



餅つきコーナーの一コマ



“つきたて餅 ちぎってまるめて あんこ餅”  
8名のご奉仕をいただきました。感謝!

## <11月例会報告>

11月4日、第22回神戸YMCA国際・チャリティーラン2019が今年も“しあわせの村”にて開催されました。今年は保健所の指導によりあんこ餅・きなこ餅が出せなくなつたため、急ぎよ、“ぜんざい”と“しろ餅”に変更。当日は木枯らし一番が吹いた寒い日でしたが、おかげさまでぜんざいは大好評でした。お餅完売後はジャガイモや薩摩イモを蒸して販売しました。多くの方の奉仕により今年もファンド作りができたことを感謝します。当日の益金は25,017円でした。





木枯らし一番が吹いた寒い日でしたが、みんなは元気いっぱい！



保育園の先生も ぺったん・ぱったん！



今年はいんころ餅・きな粉餅はなし。皆さんはぜんざい餅をまわっています。



ぜんざいは大好評でした。



収益金は1,336,573円、皆様お疲れ様でした。

### <ジャガイモファンド報告>

10月18日入荷の北海道北見産のジャガイモ100箱は会員および会員O.Bの協力のもと今年も好評のうちに完売しました。今年のじゃがいもは味もよく、例年より早い完売でした。中村ワイが連日ウエルネスセンターのロビーに立ち販売に協力されました。ご苦労様でした。ファンド益金は67,800円でした。

### 「エーゲ海クルーズ紀行

#### ギリシャの休日11日間」(第4回)

9月19日(水)

昨夜、いつの間に出航していたのかAM7:00 ロドス島の北の玄関口、ロドスシティに入港。まずはバスで約1時間、左手にエーゲ海を見ながら南下シリンドスへ。古代3大都市のうち、今もその面影を残している。両側に土産物屋やカフェの連なる細い路地を抜け、見上げるような階段を登った所にアクロポリスの神殿の柱が残っていて、眼下の海はエメラルド色。降りてきた所のカフェで頂くフレッシュオレンジジュースとレモンジュースにホッと一息。ロドスに戻り、この旅で最も楽しみにしていた1つロドス旧市街観光のスタート。今日の為に「ロードス島攻防記」塩野七生著を読んできた。15世紀半ば、トルコ帝国によるコンスタンティノープル陥落後トルコの目と鼻の先(約20kmですぐそこに見える)のロドス島の守護を命じられた若いカデット(フランスの南部の封建貴族の次男以下の男子、つまり家を継ぐ資格のない者)3人が属する聖ヨハネ騎士団の手に汗握る物語の舞台。西側のアンボワーズ門から入る。港を中心に築かれた城壁は約5km 巾12mは見

事。守備兵は約 2,500 名。対するトルコ兵は 10 万の大軍。その時の石の砲弾は直径約 40cm 位で、本当に石の塊。ボーリングの球のように表面はツルツとしていて、よくこんなに丸く磨いたなと感心。所々に積んであり、当時を偲ばせる。騎士団長の宮殿といっても質実剛健な感じで、正に砦。この 2 階に上る長い階段を彼等が重い甲冑を着て駆け上がったのかと思いを馳せる。この横の石畳の道は、港まで続く緩い下り坂で、俗に騎士団通りと呼ばれている。その下にあるのが考古学博物館で、元は騎士団によって建てられた病院で、十字軍の遠征での傷兵らを治療していたという。「ロドスのアフロディア像」が有名。そしてこのヨハネ騎士団は、今もシチリア島の南のマルタでその伝統を脈々と受け継いでいる。今日の昼食はフリー。添乗員さんお勧めのレストラン「ママ・ソフィア」へ。日本語メニューもあり、ウェイターさんも奥さんが日本人だとか。カラッカラの喉にギリシャビールが飛び込んでいく。コース料理は堪能していたので、一品料理をチョイス。まずはタコの足のグリルはレモン汁で香ばしく、

そして又タコのマリネも厚切りで美味。更にギリシャサラダはたっぷりのレタスが入り緑色が美しい。太いきゅうり、たまねぎ、ピーマンのスライス、そこに真っ赤なトマトのぶつ切り。これからこのトマトの虜になった。エーゲ海の太陽をいっぱい浴び、肉厚で硬い。しかも噛む程にじわっと甘みが口の中に広がり、ビジネスクラスの食事はスープ以外キャンセルされていた妙齢の御婦人も「トマト、大好き！」と大はしゃぎ。そしてこの上にいい塩加減で、少し酸っぱいフェタチーズ（ヤギの乳）が乗り、絶妙なハーモニー。オリーブオイルのドレッシングも加わり食が進む。次は「ムサカ」。ズッキーニ、ナス、じゃがいも、牛ひき肉を重ね、上にチーズを乗せオーブンで焼いたグラタン風の郷土料理で、白ワインの出番。次はモスハリ・スプラキ（牛肉の串焼き）を濃厚なギリシャヨーグルトと共に大満足。これぞエーゲ海を食べているのを実感。その後、旧市街を散策し名物のスキんクリームをゲットして帰船。

（丹家元陽）

### <今月の聖句>

## 「主の御手はこの山の上にある。」

（イザヤ書 25 章 10 節）

#### 聖書の小窓「ワイズの手には愛が宿る」

ワイズ活動の中で奉仕という言葉を使います。具体的には何かなと思います。ある看護師さんがおられました。緩和ケアの病室で、反応がわずかしかない患者さんの体を毎日拭いておられました。いつもの仕事なので何も考えずに。しかし、ふと自分の母のことを思い出したそうです。母が末期病棟にいたとき、自分は同じように機械的にはできなかった。私の大切な人がここに生きていてと思って体を拭いていたことを思い出したそうです。それから、すべての患者さんを母と思い、接してこられたそうです。ある日一人の患者さんが感謝をのべられた言葉は、「あなたの手には愛がある」でした。「御手はこの山の上にある」。神様がここにいて守ってください。神様はここにいらっしゃるという確信があります。「御手」という言葉にひかれます。私たちにも手を与えられているからです。神様の御手とわたしの手。この二つの手が一つとなってワイズ活動があります。ワイズの手には愛があります。私たちはワイズ活動の中で奉仕をします。機械的に奉仕をするために集められているわけではありません。神様から呼び集められた私たちの奉仕は「この手に神様の愛が宿る」奉仕です。

西日本区チャプレン立野康博（熊本ジェーンズ）

西日本区理事通信 2019 年 11 月号から転載